観点別学習状況の評価と評定への総括について

観点別学習状況の観点ごとの評価および評定を総括するために、次のような手順が必要に なる。

فسيقد والمدوي مساوحات المراجع والمدوي المدوي والمدوي المدوي المدوي المدوي المدوي والمدوي و

観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

- (1)単元における観点ごとの評価の総括(2)学期末における観点ごとの評価の総括
- 観点別学習状況の評価から評定への総括
 - (1)基本的な考え方
 - (2) 学年末における観点ごとの評価の総括と評定への総括

観点別学習状況の評価の観点ごとの総括 (1)単元における観点ごとの評価の総括

単元の評価計画をもとに、教師用補助簿を活用する

評価の観点及びその趣旨についての理解

《数学への関心・意欲・態度》

数理的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知 り、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。

《数学的な見方や考え方》

数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考 えるとともに思考の過程を振り返り考えを深める。

《数学的な表現・処理》

事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。

《数量、図形などについての知識・理解》

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けてい

下記の教師用補助簿(例)を、単元ごとに1枚作成する。

「教師用補助簿(例)」<単元別一覧表> 学年 単元「

」(全10時間)[表1]

	時	間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	
各前	観	観点	関 意 態 度 方 う う う う う う う う う う う う う う う う う う	見方や 考え方 知識 理解	表現 処理 知識 理解	見方や考え方	関心 意態 見方や 考え方	見方や 考え方 表現 処理	表 処 知 識 解	見方や 考え方 知識 理解	関 意 態 見 方 や 方 え	表現 知識 理解	計
1	関・	意・態											
岐 阜		見方や きえ方											
太郎	表現	・処理											
战	知諳	・理解											
2	関・	意・態		~~~~~				~~~~~					^^^^

各時間のねらいに照らし合わせて、1~2観点について指導することとした。空欄の箇所は、その 単位時間に指導する観点であるとともに、評価する観点となる。

上記例[表1]の場合

・数学への関心・意欲・態度

3 / 1 0 時間

・数学的な見方や考え方

7/10時間

・数学的な表現・処理

4 / 1 0 時間 5 / 1 0 時間

・数量、図形などについての知識・理解

一人一人の学習状況に応じて指導する

指道・揺助を要する生徒へ

すべての生徒が「おおむね満足できる」状況を実現できるよう、特に指導・援助を要する生徒への個別指導を充実させる。

記録をするために、補助簿を持って動き回るようなことは好ましくない。

評価資料の整理・集計をする

授業終了時に「おおむね満足できる」状況より質的に高い生徒についてはA()「おおむね満足できる」状況に至らない生徒についてC()を教師用補助簿に記入する。[表2]特に記述すべき事実があった場合は、その時間の観点となっていなくても、メモをしておく。([表2]網掛け内のコメント)

授業終了後あるいは単元終了後に、個人カードやグループカードを参考に加筆・修正を加える。

「記録後の教師用補助簿(例)」<単元別一覧表> 学年 単元「 」(全10時間)[表2]

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	
各前	観点	関 意態 見 方 え う ち う	見方や 考え方 知識 理解	表現 処理 知識 理解	見方や考え方	関心 意度 見方や 考え方	見方や 考え方 表現 処理	表現 知識 理解	見方や 考え方 知識 理解	関 意 態 度 方 や 方 え 方	表現 処理 知識 理解	計
1	関・意・態	Α				Α	発言			Α		Α
岐 阜	見方や 考え方					Α						В
太	表現・処理									筋道		В
郎	知識・理解								Α			В
2	関・意・態	С										В
	見方や 考え方		С	既習								В
	表現・処理											В
	知識・理解											В
3	関・意・態	Α				Α				Α		Α
	見方や 考え方		Α		Α	Α	Α	一般化	Α	Α		Α
	表現・処理						Α	Α			Α	А
	知識・理解			Α				Α	Α		Α	Α
200	^^^^					~~~~	~~^F	_ 188			115300 5	300

*空欄はおおむね満足の状況「B」 **

メモした内容は、その後の指導に生かすとともに、生徒の成長の過程を評価する個人内 評価と合わせて、特に目立った生徒について通知票や指導要録の所見欄に記述し、認め 価値付ける事実としたい。

(2)学期末における観点ごとの評価の総括

観点別得点の集計から評定を行う

[「]観点別評価及び評定簿 1学期(例)」 ~ 岐阜太郎さんの場合~

組	名前観点		単元 1	単元 2	単元 3	単元 4	単元 5	観点別の総括
	ılı±	関・意・態	Α	Α	Α	Α	В	Α
1	岐阜太郎	見方や考え方	В	В	В	В	В	В
	郎	表現・処理	В	Α	В	В	В	В
		知識・理解	В	Α	В	В	В	В
~~	^^^	~~~~~			~~~~	^^^^		~~~~~

2 観点別学習状況の評価から評定への総括

(1)基本的な考え方

新定は、学習指導要領に示す数学科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものである。観点別学習状況の各観点は、学習指導要領に示す数学科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価は、評定を行う場合において基本的な要素となるものである。この両者の関係を前提とすると、観点別学習状況の評価結果を総括していけば、観点別学習状況の評価と評定が以下のような対応関係にあることが理解できる。

観点別学習状況の評	価	評定	
		特に程度の高いもの	5
十分満足できる	Α	十分満足できる	4
おおむね満足できる	В	おおむね満足できる	3
努力を要する	С	努力を要する	2
		一層努力を要する	1

「関心・意欲・態度」	「見方や考え方」	」「表現・処理」「	「知識・理解」	「評定」
А	Α	Α	Α	「4」又は「5」
В	В	В	В	ر 3 ا
С	С	С	С	「2」又は「1」

上記の場合を除き、各観点ごとのABCが決まれば評定も必然的に決まるものではなく、 様々な組合せが考えられる。同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれ の評価結果が示す実現状況には幅があり、日常観察や各単元の評価の積み上げから総合的 に判断する。

(2)学年末における観点ごとの総括と評定への総括

学期末の観点ごとの評価の総括(通知票等への生かし方を含む) <岐阜太郎さんの場合>

1 岐阜 閉·意·態 A A A A B A 1 阜阜 見方や考え方 B B B B B 大島 規・処理 B A B B B B 知識・理解 B A B B B B	第元 名前 観点		単元 1	単元 2	単元 3	単元 4	単元 5	観点別の総括	通知票等	
太郎 親·妲 B A B B B B		+	関・意・態	Α	Α	Α	Α	В	Α	
郎 表現・処理 B A B B B B	1	阜	見方や考え方	В	В	В	В	В	В	2
知識·理解 B A B B B		郎	表現・処理	В	Α	В	В	В	В	3
			知識・理解	В	A	В	В	В	В	

各学期毎に集計をした結果について、年間の総括をする。 <岐阜太郎さんの場合 >

名前銀点学期		製	<u>年間総計</u> 1学期 ¦ 2学期 ¦ 3学期			観点別 の総括	評定
	+-	関・意・態	А	Α	А	Α	
1	岐阜太郎	見方や考え方	В	Α	А	Α	
		表現・処理	В	Α	А	Α	4
		知識・理解	В	А	А	Α	